おんしりん

2014
No.101
広報 恩賜林

新年のごあいさつ

第4回定例会

財政事情の公表

対談「入会と恩賜林組合の未来を語る」

組合からのお知らせ

2014年第1号
発　行　日　2014年(平成26年)1月15日
発　行　元　富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合
富士吉田市上吉田5605番地3
TEL 0555-22-3355
FAX 0555-23-3425
ホームページ http://www.onshirin.jp/
メールアドレス kumiai@onshirin.jp

新年のごあいさつ

組合長
佐藤 幸三

一市二村の入会住民の皆様、あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、まさに多事多難の年でありました。とりわけ、第6次北富士演習場内国有入会地の使用に関する協定（入会協定）及び第9次北富士演習場使用協定が取り交わされ、入会協定については、締結以来25年にして初めて協定本文を改正し、保健休養、元気回復の効果等々を認めさせることができたこと、さらには、富士山の自然環境の保全と周辺地域のまちづくりを含む「（仮称）新富士保全法」の制定について国より理解を得られたことなど様々な成果を得ることができました。

そして6月には、研究者と地元入会住民が協働して運営するという画期的な取り組みの中で行われた国際コモンズ学会北富士大会が世界各国からの研究者と多くの地元関係者が参加する中で開催され、北富士入会を世界に向けて発信することができたなど組合にとりましても節目の年でありました。

現在、本組合では、地元入会住民の財産である富士山北面約8100ヘクタールの管理地の森林を、地元住民との共働により、立地条件等の特性に応じた適正な森林管理による公益的機能が高度に発揮される森林づくりを基本理念とした、「恩賜林百年の森づくり構想」を作成しているところであります。この構想は、中長期的視野に立った恩賜林のあるべき姿、富士山北面の森林が有する公益的機能が高度に発揮できる森づくり、入会に基づいた環境資源づくり及び文化を育む森林と、入会統制管理団体としての組合組成を守り次世代に継承するため作成するものであります。また、これと並行して木質バイオマスエネルギー事業の稼働に向け鋭意取り組んでいるところであります。

さて、組合長に就任して三度目の新年を迎えることになりましたが、就任にあたり述べさせていただきましたように、組合の財産は入会住民総有の財産であることを念頭に、高い倫理性をもって職に当たるとともに、入会組合及び構成市村との融和と協調を図りながら富士山北面の入会権を堅持し、未来に継承するという組合組成の原点を忘れることなく入会住民の権利伸長に寄与していくという基本姿勢を貫いていく所存であります。

どうか、入会住民の皆様におかれましては、より一層のご理解を賜りますとともに本年が皆様方にとって実りある幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます。

議長
渡辺 忠義

一市二村入会住民の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、組合議会を代表して謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、平素より本組合並びに組合会の運営に対し、温かいご理解と絶大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみれば、第6次北富士演習場内国有入会地の使用に関する協定及び第9次北富士演習場使用協定が、構成市村をはじめとする関係諸機関、入会組合等々関係各位のご尽力により締結することができました。

そして6月には、国際コモンズ学会北富士大会が開催され秋篠宮殿下をお迎えした中、世界56ヶ国407名の参加者を募り、世界に北富士入会の歴史を紹介し成功裏に幕を閉じることができました。これらを祝福するかのように同月には、カンボジアの首都プノンペンで開催されたユネスコ世界遺産委員会で富士山が世界文化遺産に登録されるなど喜ばしい出来事が多々ありました。

そのような中、新たな年を迎え恩賜林組合では、富士山北面の入会のあるべき形を念頭とした「恩賜林百年の森づくり構想」策定に向けて取り組んでおります。

また新事業として、木質バイオマス生産施設の着工を予定しており、恩賜林組合が行う造林事業における間伐材や未利用材を有効活用し、循環型木質バイオマスエネルギーの利用体系の構築を図ろうと計画しております。

議会は言うまでもなく、組合が取り組んでいる施策の推進、将来の方針等といった重要な事項を決定する機能を有する組織であり、そしてまた自らが旧11ヶ村入会住民の代表者でもあるという認識に鑑み、地元の権益を尊重しながら、皆様からの信託を反映させ、執行者と相携えながら本組合の運営に対処して参りたいと考えております。

また本組合の将来を展望すると、これからも幾多の難題が待ち受けているかと思いますが、当議会は、皆様のご理解とご協力をいただく中、入会権擁護と二市二村関係住民の福祉向上を基本として、二市二村の歩調を揃えた発展のため努力を惜しまない覚悟でおりますので、関係機関並びに入会住民の皆様には、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとって幸多き年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

第4回 定例会開催

平成25年第4回定例会は、12月9日から12月24日までの16日間で会期を終了しました。
この定例会において、上程された議案は、すべて原案のとおり可決・同意されました。

◎議案第十四号
平成二十五年度組合一般会計補正予算（第三号）（可決）

既定の予算に歳入歳出それぞれ六百四十八万八千円を追加し、補正後の予算総額を二十三億千四百四十万七千円とするものです。

◎議案第十五号
平成二十五年度組合林産物流通事業特別会計補正予算（第一号）（可決）

既定の予算から歳入歳出それぞれ二百八十万七千円を減額し、補正後の予算総額を五千三百五十七万九千円とするものです。

◎議案第十六号
組合収入役の選任について（同意）

組合収入役に天野文人氏を選任することについて、同意を求めるものです。

新収入役の紹介

天野 文人
忍野村

議会の同意を得て、12月9日に収入役が新しく就任しました。

新議員の紹介

天野 貞夫
忍野村

長田 幸保
山中湖村

前田 厚子
富士吉田市上吉田

組合会議員の辞職に伴い、12月に新しく就任しました。

議会の構成
（12月24日現在）

議長　渡辺 忠義
副議長　長田 幸保

［林務委員会］
委員長　天野 貞夫
副委員長　桑原 守雄
委員　渡辺 忠義
長田 幸保
前田 厚子

［演習地対策委員会］
委員長　小俣 光吉
副委員長　渡辺 利彦
委員　羽田 功
渡邉 勝彦
勝俣 大紀

［財務委員会］
委員長　羽田 幸寿
副委員長　羽田 康文
委員　太田 利政
奥脇 和一
大森 保廣

南関東防衛局長から感謝状が贈呈されました

北富士演習場にかかる重要かつ困難な諸問題の処理について積極的に尽力した功績が認められ、関係者4人が丸井博南関東防衛局長から表彰され、組合からは、次の2人に感謝状が贈呈されました。

被表彰者

富士吉田市外二ケ村恩賜県有財産保護組合長
佐藤 幸三

富士吉田市外二ケ村恩賜県有財産保護組合前入会協定審議会長
天野 弥一

佐藤幸三組合長（右）と丸井博局長

天野弥一前入会協定審議会長（左より3人目）

財政事情の公表

組合では、予算の執行状況などを地域の皆さんにお知らせするため、年に2回財政事情を公表しています。
今回は、平成25年度一般会計及び特別会計の上半期（9月30日現在）における予算執行状況並びに基金の状況についてお知らせします。

平成25年度 歳入歳出の執行状況（上半期）

◎一般会計

（単位：円）

歳　入		
科目（款）	予算現額	収入済額
1 使用料及び手数料	4,885,000	4,574,720
2 国庫支出金	12,352,000	600,000
3 県支出金	3,769,000	0
4 財産収入	534,339,000	492,070,256
5 繰入金	109,245,000	50,000,000
6 繰越金	1,000	0
7 諸収入	1,643,328,000	1,617,756,254
歳入合計	2,307,919,000	2,165,001,230

（単位：円）

歳　出		
科目（款）	予算現額	支出済額
1 議会費	64,562,000	26,813,978
2 総務費	539,999,000	289,412,060
3 事業費	1,693,357,000	194,253,573
4 公債費	1,000	0
5 予備費	10,000,000	0
歳出合計	2,307,919,000	510,479,611

◎林産物流通事業特別会計

（単位：円）

歳　入		
科目（項）	予算現額	収入済額
1 営業収入	47,257,000	41,445,151
2 営業外収入	9,129,000	9,128,105
歳入合計	56,386,000	50,573,256

（単位：円）

歳　出		
科目（項）	予算現額	支出済額
1 営業費	55,822,000	39,992,202
2 営業外費	364,000	364,000
3 予備費	200,000	0
歳出合計	56,386,000	40,356,202

◎関係市村賦課金の概要

賦課金なし

◎財産及び積立金の状況

（単位：円）

基　金　名	金　額
財政調整基金	1,791,733,131
林業振興事業整備基金	6,829,378,385
計	8,621,111,516

（平成25年9月30日現在）

入会と恩賜林組合の未来を語る

新春恒例の組合長対談。今年は、昨年6月に開催された国際コモンズ学会北富士大会において学術企画委員として尽力された棚澤能生教授をお招きし、成功裏に幕を閉じた北富士大会を振り返り、富士北麓地域の「未来」について、語っていただきました。

早稲田大学教授
早稲田大学比較法研究所所長
棚澤 能生

対談

組合長
佐藤 幸三

地域との連携で成功した、国際コモンズ学会北富士大会

佐藤組合長（以下組合長）：昨年6月の国際コモンズ学会北富士大会では、大変お世話になりました。まずは率直な感想をお聞かせ下さい。

棚澤教授（以下棚澤）：今回の学会は、世界から来た研究者の方々が、コモナーズ（コモンズの当事者・地元入会住民）と一緒になって学会を運営するという、とても画期的な学会でした。というのも、入会地だけを見ても入会の真の姿はわからない。入会地というのは、人々の生活の中にあるものですから。今回は、富士山という神聖な山への信仰、食や織物といった文化なども含めた全体のなかで入会というものへの理解も深めることが出来た。参加者は皆、深い印象を持って帰られたことと思います。

組合長：開催期間中はとてもよいお天気で、富士山を毎日見ていただけた。おかげで、富士山とともに暮らす私達の文化や生業など、全部含めて感じていただけたのではないかと思います。

棚澤：やはり富士山は素晴らしいですね。世界中から約４００名の研究者が参加しましたが、皆さんとても喜んでいました。ところで、今回の学会は、国際コモンズ学会にとっても非常に画期的で、今後学術研究大会を実施する上でひとつのモデルになったと感じています。こういう学会のもち方それ自体が、今後の学会運営を考える上でも、非常に重要になってくると思います。

組合長：私どもとしましても、2年以上前に委員会を組織し、準備を進めてきたわけですが、初めての経験で不安があるなかで、一市二村の行政はもとより、商工会議所青年部や婦人会、子どもたちまでが協力し参加してくれて大変力強く感じました。また、学会の先生方が準備段階から頻繁に当地を訪れ、この地域の入会をどのようにして世界に発信して行こうかと我々と一緒になって考えてくださったことにも感謝しています。今回、地域との連携や学会のバックアップに支えられて成功を収めることができたことで今後につながる大きな自信にもなりました。

入会を次の世代につなげるのは、この地に生きる者の使命。その責任を果たすために、今すべきことはたくさんある。

組合長：今回の世界大会による効果について、先生はどのようにお考えですか？

棚澤：地方都市が世界的な学術会議を誘致する場合、経済効果ばかりが注目されますが、実は、学会開催の効果は準備段階から始まっています。例えば今回は事前に「まちかどカフェ」という取り組みがあったのですが、地元の方、それも非常にたくさんの若い方が参加し、我々とともに、入会とは何かという勉強をし、まちづくりの専門家も交えて様々な議論ができました。また、地元の方々も参加できる「地元連携プログラム」を用意したのですが、800名を超える一般の方、とりわけ地元の未来を担う若い世代の方々が参加され、入会の歴史や未来についての議論も展開できた。これは大きな効果です。私はむしろ、こちらに注目したいですね。

組合長：私も北富士大会では、セッションに参加し、発言する機会がありましたが、いろいろな方のご意見を聞きながら、過去の入会の歴史を若い方に伝えていくとともに、これからの入会についても、いろいろと考えていかなければならないと実感しました。

寒冷地で、農業生産量も非常に低いため、私どもの先人にとって、富士山麓で入手できる林野産物は、生きていく上で欠かせない物でした。この生命線とも言える重要な権利を、血と汗を流しながらも、代々守って来たのです。先人から引き継いだ私たちも、これを守り、後世につなげていかなければならない。これは当地に生きる私達の重い責任だと思っています。

棚澤：今、世界中でコモンズが消えていこうとしているのに北富士ではこんなにも長い間、入会というコモンズが継続してきた。なぜそんなことが可能なのかと多くの研究者が関心を抱いたと思うのです。そこで私達が皆さんにお伝えしたのは、この地域における入会は自然なプロセスのなかで守られてきたのではなく入会組合とその連合体である恩賜林組合が守ってきた歴史があるのだと。そして、その中で地域社会の主体として自立してきたのだと。つまり、この地の人々は、地域社会の主体性を入会を通じて育んできたからこそ、現在に至るまでコモンズが継続しているのだと言うことです。コモンズとは、その地域に定住し、生業をしている人が、その地域の自然資源を利用し、かつ維持管理して行くのに最も相応しい形態であるということです。その点、こちらの入会はまさにその形となっており、それもまた入会が継続してきた理由の一つではないかと思います。

組合長：しかしながら、今後も維持するためには、若い世代にどのように伝えていくかということが大きな課題になります。例えば、農業の後継者問題にしても、そこが解消されないと入会も損なわれてしまう危険性があります。その関係性は、歴史的成り立ちや入会の背景にあるものを知らないと理解できないでしょうから。その点からも今回の北富士大会はとても大きな意義があったと思います。

棚澤：ドイツの政府内に設置されている学識者委員会の政策提言によれば、人類は、遊牧社会から農耕社会への転換、農耕社会から産業社会への転換と、二度の大転換を経験し、今三度目の大転換に直面していると。それが産業社会から持続可能社会への大転換だというのです。さらに過去2回の転換は非常に長い期間を掛け、自然のプロセスのなかで成し遂げられた転換だったのに対し、今回は、そんな時間的な余裕は残されていないため人間があらゆる英知を結集して計画的に転換して行かなければならない。この転換社会は、知識社会として構成されなければならない。つまり今までは、学者が唱える学説と実践の間には距離があったのですが、これからは両者の融合が重要になってくるということです。我々のコモンズ学会でも、コモナーズの実践と、学問の世界の知識との融合を推進して行かなければなりません。その先駆けとして、恩賜林組合の事業にも研究者にどんどん参加してもらい、融合のなかで事業展開をされていかれるといいなと思うのです。そして、その出発点となるのが、今回の北富士大会であったということになれば、これは本当に大きな意義ある大会であったと言えると思います。

産業社会から持続可能社会へと大転換期を迎えた今、恩賜林組合には、地域づくりの主体として積極的に活動して欲しい。

棚澤：ところで、一方で一部事務組合という公的な団体でありながら、他方では入会権という私的な権益を代表している恩賜林組合は、非常にユニークな組織ですね。近代社会は、私的な利益を追求する自由な市場経済社会と、公共的な事項を独占的に差配する国家が、分離しながら関係性を保っているという、2元的な構造になっているのですが、こちらの恩賜林組合は、その中間に位置している。僕はこの存在が、産業社会から持続可能な社会へと転換して行く上で大きな役割を果たす主体となり得ると考えています。

組合長：それは、今後の地域づくりには、この恩賜林組合のような組織が必要になってくるということですか？

棚澤：ええ。現在、まちづくりの中心を行政が担うケースが多いのですが本来は地域の公共を自ら形成する住民組織が主体となって計画すべきであると思うのですね。それに、持続可能な社会への転換は、どうしたって地域社会が主体となる。となれば、それを作っていくのは、国家でもない、地方公共団体でもない、私人でもない、その中間にある地域団体だと。そんなわけで、恩賜林組合に寄せる期待はとても大きくなっています。

棚澤能生（くるみさわ よしき）
1954年生まれ。早稲田大学法学部卒業。現在、早稲田大学教授、早稲田大学比較法研究所所長。専門:法社会学、農業法、土地所有権論。現在、持続可能社会への大転換と法、地域における自然資源の維持・管理主体に関する研究等を手がける。
国際コモンズ学会北富士大会学術企画委員であり、大会期間中の地元向けプログラムにも参加するなど、特に北富士入会関連の大会プログラム及び関連企画について、中心となって企画・運営された。

組合長：私どもが管理する県有林が、天皇家より御下賜されてから今年で102年目を迎えたということで、次の100年に向けての森づくり事業を計画し、条例を制定しました。今後は計画に沿って、森づくりを進めるとともに、間伐材や、成長した木の活用法として、木質バイオマス事業を新たに展開することにしました。これは化石燃料に代わるクリーンな燃料として期待される新エネルギーであり非常に意義ある事業です。来年度からは、この木質バイオマスを基盤とした循環型社会の構築を図る事業に随時取り組む予定です。

北富士コモンズにおける利益の三層構造

公的利益	統合 →	共的利益	← 統合	私的利益
環境・景観・文化の保全、保護、発展 国防軍事演習		入会権の新しいかたち作りを通じた未来の地域づくり		入会権に基づく林雑補償要求等
<主体> 世界・国・県・市町村		恩賜林組合		旧11ヶ村入会組合

棚澤：持続可能な社会で重要なのは、地域における循環です。エネルギーの自給、食料の自給と言った形で、地域が自立して行くということが、大事な要件であると思います。その点、木質バイオマスへの取り組みは、素晴らしい事業展開だと思います。また森づくり。これもとても大切です。持続可能な社会においては、福祉、環境、経済、の3要素がどういうバランスを取りながら社会を構成して行くかということが重要な課題になります。日本には、自然と共に生きる共同体的な世界が昔からあり、そのなかで心と体のバランスも保たれていたと思います。しかし共同体の解体とともに人々は自然との関係も断ち切られて孤立していく。ここからストレスや心因性の病気が発生する。モノは豊かになったけれど、それだけでは満たされないことが実感され始めてもいる。自然との関係性を回復することが、心と体の健康を取り戻す上で大事ではないか、こうした中で森林が持つ健康増進機能が注目されています。自然環境と福祉・医療を統合するという課題です。ご当地の豊かな森林は、まさに国民にとっての宝です。

組合長：私どもも、森をつくる、森を育てると同時に、森を活用するということも進めていきたいと考え、入会住民の健康増進に役立てていただこうと、散策路を整備しました。歩道にはウッドチップを敷き、足腰への負担を軽減していますので、高齢者にも好評です。

恩賜林組合としても、持続可能な社会、循環型社会への転換の一翼を担って行きたいと思っておりますので、今後とも世界を見てきた棚澤先生の研究者の立場からご指導をよろしくお願いいたします。本日は貴重なお話をありがとうございました。

組合からのお知らせ

申し込み・問い合わせ
●恩賜林組合 ☎22-3355

木工作業スペース貸出

木工作業スペースと道具の貸し出しを行っています。材料があるけど、道具が無い方、日曜大工に興味がある方など、お気軽に御利用ください。

[貸出日時] 平日の午前10時から午後4時まで(祝日除く)
[対象] 富士吉田市、山中湖村、忍野村在住の18歳以上の方
[費用] 無料(要予約)
[内容] 木工作業スペース、道具を提供し、自由に作製してもらいます。材料については持ち込みです。
詳しい内容は、問い合わせください。
[担当] 森林整備課

おんしりん スノーシュー体験会

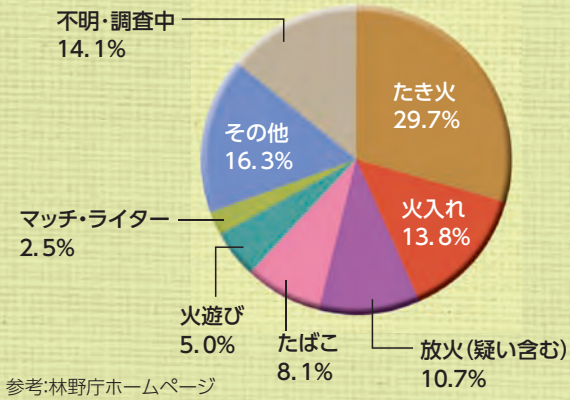
スノーシューは、だれでも簡単に雪の上を歩くことができる魔法の道具!まるで雲の上を歩いているような「ふわふわ」とした感じが楽しめます。

スノーシューで寒い冬を吹き飛ばそう!

[日時] 平成26年2月23日(日)
午前の部／午前9時30分から午前11時30分まで
午後の部／午後1時から午後3時まで
[対象] 小学生から大人まで(保護者の方も参加可)
[費用] 無料(要予約)
[定員] 各回とも20名
[内容] スノーシューを履いて、土丸尾地区を散策します。
*積雪の状況により、プログラム変更の可能性があります。
あらかじめ御了承ください。
[担当] 森林文化課

山火事防止に御協力ください

山火事原因別出火件数
(2008年～2012年の平均)



参考:林野庁ホームページ

日本における山火事の原因は、「たき火」が29.7%で最も多く、次いで「火入れ」、「放火(疑い含む)」、「たばこ」となっています。

このように、山火事は、落雷など自然現象によるものは極めて稀で、ほとんどが人間の不注意などで発生しています。

冬季に入り、空気が乾燥し、火災が発生しやすくなっています。

入山する際には山火事防止にご協力をお願いします。

- ●たき火や火入れなど、火の使用は禁止です!
- ●たばこを吸う際は、場所や状況を考えましょう!
- ●携帯灰皿を持ち、たばこの吸い殻やマッチ等の投げ捨ては絶対やめましょう!

貴重な森林を山火事から守るため、皆様のご協力をお願いします。

謝謝来園

家族みんなで遊びに来ました。バトミントンで遊べて、楽しかったです。

富士吉田市上吉田
柏木菜瑠(かしわぎ なる)ちゃん(6歳) 柏木ももちゃん(かしわぎ)(6歳)

無料法律相談

組合では、一市二村入会住民の方を対象に、顧問弁護士による無料法律相談日を設けています。

法律問題でお困りの方は、この機会にご相談ください。

次回相談日
平成26年3月11日(火曜日)
受付時間／午後1時から午後2時まで
*指定日以外又は電話による相談はできません。

【担当】
演習地対策課

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C023103 www.fsc.org
この印刷物は環境にやさしいVOC(揮発性有機化合物)成分フリーの植物油型インキを使用して印刷しました。
この印刷物は色覚障害の方に配慮し制作しています。